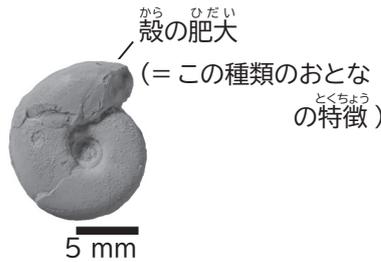




## 2023年度の寄贈資料紹介 (2)

### こがた 小型のおとなアンモナイト



①テトラゴニテス・ナヌス *Tetragonites nanus* (遠藤大騎 寄贈)  
世界最小のおとなアンモナイトの一つ。(写真はホワイトニングしたもの)



②アナゴードリセラス・ナヌム *Anagaudryceras nanum* (大和治生 寄贈) 2.5 cmほどのものしか見つかっていない種類。



③ハボロセラス・ハボロエンゼ *Haboroceras haboroense* (伊豆倉正隆 寄贈) 2 cmまでのものしか見つかっていない種類。



アンモナイトは殻を徐々に<sup>じょじょ</sup>つぎ足して大きくなります。アンモナイトは種類ごとに最大の大きさ(おとなの大きさ)が異なっています。形が少しずつしか変わらずに大きくなるものがほとんどなのですが、“おとな”になった特徴が分かる種類もあります。

全ての種類でおとなの大きさが分かっているわけではないので、最小のアンモナイトを決めるのは<sup>むずか</sup>難しいのですが、殻の大きさが1 cmのものが世界最小だろうと考えられています。2023年に新種として発表された北海道産のテトラゴニテス・ナヌ

ス (*Tetragonites nanus*) は最も小さなおとなの大きさが1 cmで、おとなアンモナイトとして世界最小の一つです。<sup>ほべつ</sup>穂別博物館でもこの種類を<sup>てんじ</sup>展示したかったので、協力者に<sup>れんらく</sup>連絡したところ、1標本が見つかり、寄贈していただきました。また、テトラゴニテス・ナヌスほど小さくはないのですが、他の小型アンモナイト2種(“おとな”の特徴は不明の種類)も寄贈していただきました。

# 2023年度のクリーニング資料



きゅうげき  
急激に  
すぼまる  
部分

側方に大きく膨らむ部分

穂別産および穂別博物館資料として最大である1メートルのアンモナイトのクリーニングが終了しました（ホッピーだより No. 439、No. 463 でも紹介）。

このアンモナイトはパキデスモセラス・パキディスコイデ *Pachydesmoceras pachydiscoide* という種類で、成長最後の殻が側方（写真の前後側）に大きく膨らんだ後に、急激にすぼまる形になることが特徴で、この標本でも成長最後期の特徴がよく表れています。

重量は400-500kgほどあるのでしょうか。重くて持ち上げることや動かすことが大変なので、どのように展示台を作るかなどが悩みどころです。

学芸員 西村智弘

## およげ！フォスフォロサウルス



海生爬虫類モササウルスのフォスフォロサウルスの生態復元動画が公開されています。

<https://www.youtube.com/watch?v=pjqOx3hio4g>



イギリスのBBC Studiosが制作する『太古の地球からよみがえる恐竜たち

シーズン2 (Prehistoric Planet season 2)』でフォスフォロサウルスの動画が制作されました。この動画は、小西卓哉准教授（シンシナティ大学）と穂別博物館ほかの協同研究（2015年発表）で明らかにされたフォスフォロサウルスの生態と、新村龍也学芸員（足寄動物化石博物館）が制作した3DCG（上のイラスト）を参考に制作されたものです。夜行性の生態がよく分かる動画になっています。

## むかわ町穂別博物館

開館時間 9:30 ~ 17:00  
(最終入館 16:30)

観覧料	大人	小学生～高校生
個人	300円	100円
団体 (10名様以上)	200円	50円

小学生未満：無料  
むかわ町の小学生～高校生：無料

2024年5月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2024年6月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

■ 休館日 ○ 町民無料観覧日

